

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26770249

研究課題名(和文) 碑刻史料の収集・精査による14-19世紀中国華北宗族の研究

研究課題名(英文) Kinship organizations in north China during the fourteenth to nineteenth century: A new approach based on epigraphical evidence

研究代表者

飯山 知保 (IIYAMA, Tomoyasu)

早稲田大学・文学大学院・准教授

研究者番号：20549513

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：先塋碑の分析により、本研究は次のような、当該時期華北における宗族のあり方の諸相を明らかにした。すなわち、在地有力者層の顔ぶれは変わったものの、大部分の婚姻は地域内で行われ、複数の傍系親族を取り込んだ大規模宗族に発展することはなかった。モンゴル支配下においては、「根脚」の原則により、モンゴルとの世代を越えた主従関係の維持が、家系の政治的地位を維持する鍵であった。このため、最も政治的に成功した諸家系では、同様な政治力を持つ同僚の家系と、地域を越えて婚姻関係を取り結ぶことがあった。しかし、この場合でも、根脚の恩恵を受けない族人たちは、同一地域内での婚姻関係の維持に終始した。

研究成果の概要(英文)： This research project has highlighted the northern trajectory of kinship evolution in north China. although the lineup of local elite changed repeatedly by the dynastic transitions during the fourteenth to nineteenth century, the way local elites maintained their status in local society did not change tremendously. The marriage pattern of the Jin-Yuan stele erectors suggests that marriage largely remained a local affair while office-holding kinsmen occasionally sought to establish marriage ties with their colleagues or acquaintances in officialdom. Even in the case of the Hunyuan Suns, whose patriarchs successfully maintained the hereditary connection with the Mongol imperial bloodline, kinfolk without official status or with a low-ranking office married locally, rather than seeking to establish interregional marriage networks. This binary marriage pattern in the office-holding descent groups was hardly unique in the Jin-Yuan north China.

研究分野：中国史

キーワード：先塋碑 14-19世紀 華北社会 モンゴル時代

1. 研究開始当初の背景

所謂「唐宋変革」をへて新たな指導者層として勃興した科挙官僚の輩出母体となり、在地社会で主導的な立場にあった知識人層（士人層）の存在や、その士人層が形成の重要な主体となった宗族は、宋代以降の中国社会を理解する鍵として認識されている。贅言するまでもなく、古代の宗法に基づきつつ、科挙制度の確立と浸透に代表される新たな社会秩序に対応すべく現れた宋代以降の宗族は、いご明清時代に至るまで中国社会の秩序構造に多大な影響を及ぼす親族・社会組織であり続けた。今日まで蓄積されてきた関連研究によれば、彼らは族産の設立や祠堂・義荘の運営による一族の結集を行うなど、自らの社会的地位の維持・向上に努める一方、系譜の記録・伝承にも注力し、11~14世紀の南方中国では家譜・族譜の編纂が広範に普及してゆく。

しかし、かかる先行研究の大部分は、多くの文献史料が伝存する南方中国、とくに江南一帯のみを対象としてきた。結果的に、「科挙による官僚輩出の母体として慣習的・制度的な特権を享受し、在地社会で指導層を形成した士人層が、「宗族」と呼ばれる親族集団を組織する重要な主体となる」という社会関係・構造が、果たしてその他の地域、とくに様々な外来民族集団と在来住民が交雑し、多民族・多文化・多言語が大規模かつ長期的に混在した華北でも普遍的であったのか、実は不詳である。そもそも、桑原隲蔵「歴史上より観たる南北支那」(1925)以来、南北差異は中国社会を理解する鍵であり、その今日につながる文化的・社会的淵源が形成された11~14世紀が極めて重要な時期とされてきたが、同時期の華北社会に関する知見はごくわずかであった。

だが、1990年代以降、碑刻史料の積極的な活用により、モンゴル時代(元代)そして遼金時代研究は新たな段階に入った。申請者はそうした新史料を積極的に利用して、たんに南方の知見を敷衍するのみであった華北社会に関する定説を再検討してきた。とくに女真・モンゴル支配下(「金元時代」)の華北社会に対する科挙制度の影響を重点的に分析し、当時の華北社会では、南方とは異なる統治体制・出仕制度のもとで、科挙受験能力を背景として様々な社会的特権を享受する南方中国型「士人層」は形成されず、むしろモンゴルが導入した新たな出仕慣習や制度により、モンゴルとの結びつきを基準として在地有力者層が大幅に再編成されたことなどを明らかにした。その総合的な成果は来春に専著として出版されることが決まっている(下記「研究業績」参照)。

このように、南方とは明らかに異なる社会構造をもっていた当時の華北の史料にも、「宗族」という語彙は頻出するが、その実

態に関する実証的研究はほぼ皆無である。なぜなら、前近代中国の宗族に関連する先行研究は、系譜の伝承を目的とした族譜などの文献資料がほとんど伝存しない同時期の華北に注目してこなかったからである。結果的に、華北は南方と比較して「宗族形成の動きが微弱」な地域と認識されるのみであり、なぜ「微弱」であったのか、そもそも華北の人々にとって宗族とはどのような概念であったのか、といった問題に光が当たるとはなかった。

しかし、申請者はこれまでの現地調査において、金元時代の「先塋碑」などの家系顕彰碑の裏面(碑陰)に未報告の系譜資料が刻まれている事例を数多く確認し、それらの収集・分析により、華北宗族の実像に対する十分な研究を行ないうることを確信するにいたった。

2. 研究の目的

本研究は、中国華北地域での現地調査を通じて碑刻史料の網羅的な収集・分析を行い、知見がほぼ皆無である前近代華北における「宗族」(宋代以降に形成された、父系血族を中心とする親族組織)の実像や、在地社会でのあり方などを解明する。従来、宋代以降の中国社会史研究は、江南地域を中心とした南方に集中してきた。当然、上記の宗族組織も、南方での実像のみに関心が集中し、それが「伝統中国」社会の象徴とみなされている。だが、同時期の、北方・西方からの外来民族の影響を多くうけた北方(華北)社会での「宗族」の実像については、漠然と南方の知見が敷衍されるのみであった。本研究ではその定説を具体的な新出史料により再検討する。

3. 研究の方法

本研究の骨子は、徹頭徹尾、中国華北での現地調査による史料収集とその分析である。「研究目的」で指摘したように、近年の未紹介の碑刻史料の刊行は、従来は史料的制約により詳細な考察が不可能とされてきた宋代以降の華北社会研究に、全く新たな展開をもたらしている。現地にはまだ未紹介の碑刻も数多いうえ、既発表の碑刻も、発表時にはその正面部分(碑陽)のみが公表されることがほとんどであり、往々にして重要な情報が刻まれるその他の面(碑陰・碑側など)は現地調査によってのみ確認・分析が可能である。本研究では中国の研究者の協力のもとで、かかる碑刻、とくに「宗支図」「宗譜図」などが刻まれる「先塋碑」などの家系顕彰碑を網羅的に調査し、史料群として収集する。そして、そこに見られる親族概念やその構築理論・社会的役割などを析出し、同時期の南方宗族と比較したうえで、華北の地域性・文化的特質を解明する。

4. 研究成果

先塋碑の分析により、本研究は次のような当該時期華北における宗族のあり方の諸相を明らかにした。すなわち、在地有力者層の顔ぶれは変わったものの、大部分の婚姻は地域内で行われ、複数の傍系親族を取り込んだ大規模宗族に発展することはなかった。モンゴル支配下においては、「根脚」の原則により、モンゴルとの世代を越えた主従関係の維持が、家系の政治的地位を維持する鍵であった。このため、最も政治的に成功した諸家系では、同様な政治力を持つ同僚の家系と、地域を越えて婚姻関係を取り結ぶことがあった。しかし、この場合でも、根脚の恩恵を受けない族人たちは、同一地域内での婚姻関係の維持に終始した。

16世紀後半にいたると、複数の分枝(房)から形成される宗族が増加し、その統一的凝集の核として先塋碑が再び脚光を浴びることとなる。刻まれた系譜を再解釈することにより、それら宗族は自らの土地所有や様々な既得権益を合法化し、さらには近隣の親族集団に優越した社会的・政治的地位を築くことに成功した。

その後、19世紀にいたるまで、先塋碑は親族結合の歴史的根拠として機能し続けることになる。この際、華北宗族は南方のそのように傍系親族を積極的に吸収することはなく、むしろ始祖からの輝かしい歴史と血脈を、直系子孫が独占する形を志向することとなった。この傾向は、民国時代にいたっても不変であり、それは現在にも引き継がれている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

1. 「モンゴル・「中国」の接壤地帯としての12-14世紀華北—モンゴル帝国の統治と華北社会の変容—」, 『島根県立大学北東アジア地域研究センター 北東アジア研究』, 別冊第3号, pp.11-20, 2017年9月.
2. “Steles and Status: Evidence for the Emergence of a New Elite in Yuan North China,” (英語) *Journal of Chinese History*, vol.1, pp.1-24, November, 2016.
3. 「明代先塋碑の変遷」, 『宋代史から考える』編集委員会[編], 『宋代史から考える』, 東京: 汲古書院, pp.289-312, 2016年8月.
4. “Genealogical Steles in North China during the Jin and Yuan Dynasties,” (英語) *The International Journal of Asian Studies*, vol.13-2,

International Journal of Asian Studies, vol.13-2, pp.151-196, July, 2016.

5. “A Career between Two Cultures: Guo Yu, a Chinese Literatus in the Yuan Bureaucracy,”(英語) *The Journal of Song-Yuan Studies*, vol.44, pp.471-501, 2014 (published in March, 2016).
6. 「金元時期北方社会演变与“先塋碑”的出現」(中国語), 『中国史研究』, 2015年 第4期, pp.117-138, 2015年12月.
7. 『西隠文稿』からみた元明交替と北人官僚, 『宋代史研究会研究報告集第10集 中国伝統社会への視角』, 東京: 汲古書院, pp.91-124, 2015年7月.
8. 「蒙元支配与晋北地区地方精英層の変動 - 以《定襄金石攷》為中心」(中国語), 『碑銘研究』, 第二輯, 北京: 社会科学文献出版社, pp.137-166, 2014年11月.
9. “A Tangut Family’s Community Compact and Rituals: Aspects of the Society of North China, ca.1350 to the Present,”(英語) *Asia Major*, 27-1, pp.99-138, May, 2014.

[学会発表](計26件)

1. “Mongol Rule, Steles, and Imaging Ancestry in North China, 1260s to Today,” Invited talk sponsored by Isaac Manasseh Meyer Fellowship, Wan Boo Sow conference room, Department of Chinese Studies, National University of Singapore, Republic of Singapore, May 2, 2018.
2. Facilitating the Panel 22 “Song-Ming,” the Second Conference on Middle Period Chinese Humanities, Lipsius 235B, Leiden University, Netherland (英語), September 16, 2017.
3. “Memory of Mongol Rule and Lineage Building in Ming-Qing North China,” in the Panel “Transcending Boundaries of Identity, Religion, and Dynasties in the Local Societies during the Song(Jin)-Yuan-Ming Transition (1000 to 1400),” AAS-in-Asia 2017, Hyundai Mot

- or Hall, B204, Korea University, Republic of Korea (英語), June 24, 2017.
4. “Actually, We Are Mongols!’: Ancestral Narratives and Identity Shifts Derived from Yuan Steles in North China, ca.1400 to Today,” Invited talk, Lecture Room 108, Joukowsky Institute for Archaeology and the Ancient World, Brown University, US (英語), March 10, 2017.
 5. “How Did the Mongol Rule End?: The Life of Song Na (1311-1390) during the Yuan-Ming Transition in North China,” “New Directions in Central and Inner Asian History” Workshop, room S354, CGIS, Harvard University, US (英語), March 7, 2017.
 6. “An Introduction to Epigraphic Field Research in Rural North China,” Invited talk at the Council on East Asian Studies at Yale University, Room 301, Rosenkranz Hall, Yale University, US (英語), March 3, 2017.
 7. 「華北社会歴史上の蒙元統治與其影響」, “歷史學研究的問題與路徑”學術研討會, 廈門: 天鵝大酒店2樓會議室, 中華人民共和國(中國語), 2016年11月6日.
 8. 「『西隱文稿』所見的元明交替与北人官僚」, “十一十三世紀東亞史的新可能性”首屆中日青年學者宋遼夏金元史研討會, 上海: 復旦大學光華樓東輔樓101會議室, 中華人民共和國(中國語), 2016年9月25日.
 9. 「明朝的華北征服与社会變動」, 郎潤宋遼夏金元史青年學術沙龍第七場, 北京: 北京大學中國古代史研究中心報告厅, 中華人民共和國(中國語), 2016年9月24日.
 10. 「石刻史料与金元華北地方社会」, RUC歷史考古沙龍8, 北京: 中國人民大學博物館202, 中華人民共和國(中國語), 2016年9月23日.
 11. 「蒙元時期碑刻与明代華北社会研究」, 「知識的構成與實踐」論壇, 中國宋史研究会第十七屆年會, 広州: 中山大學嶺南堂黃炳礼室, 中華人民共和國(中國語), 2016年8月21日.
 12. “Engraving Genealogy: The Emergence of New Epigraphic Practices and Lineage Formation in Yuan-Ming-Qing North China,” in Panel “New Traditions in Local Settings in Post-Mongol China: The Adaptation and Localization of Ritual Practices and Religious Beliefs,” AAS-in-Asia 2016, room SK 104, Shikokan, Doshisha University, Kyoto, Japan (英語), June 25, 2016.
 13. 「郊祀覃恩所代表的金代“皇帝”形象之一端」, “《事林広記》与宋金元明社会研究”課題組學術研討會, 広州: 暨南大學文學院四樓歷史系會議室, 中華人民共和國(中國語), 2016年4月24日.
 14. 「碑刻史料与12至16世紀華北社会史研究」, 招待講演, 広州: 暨南大學文學院 五樓古籍所會議室, 中華人民共和國(中國語), 2016年4月23日.
 15. “Forgery in Chinese Epigraphy: The Case of the Yang Stele,” Lunch Talk, Rhode Island Hall, Room 008, Brown University, US(英語), March 21, 2016.
 16. “Steles from *Yangjia Citang* and the Yuan-Ming Transition,” Talk at Seminar “Issues in Song-Liao-Jin-Yuan,” in HGS 117, Yale University, USA(英語), February 29, 2016.
 17. “Running through the Legacy?: Japanese China Study in Distress since the 1990s,” “New Perspectives on Studies in the Humanities”: International Workshop organized by Waseda University and National Taiwan University, National Taiwan University, Taipei, Taiwan (英語), January 11, 2016.
 18. “In Search of Compatibility: The Emergence of New Chinese Literati under Mongol Rule, 1234–1368,” *Eurasian Empires, Public Space/Sphere, and Collective Identities at the Threshold of Modernity*, the workshop sponsored by Joint Committee for Nordic Research Councils in the Humanities and the Social Sciences

(NOS-HS) & The Academy of Finland project “Political Power in the Early Modern European and Islamic Worlds,” *The Seurahuone Helsinki, Helsinki, Finland (英語), December 3, 2015.*

19. “Who Brought the Rain?: Non-Chinese Perception of A Local Rainmaking Ritual in Yuan-Ming North China,” in Panel 24 “The Reception and Localization of Foreign Religions in Yuan and Ming China,” AAS-in-Asia 2015 Conference, Academia Sinica, Taipei, Taiwan (英語), June 22, 2015.

20. 「從祖墳到祠堂 - 元明華北系譜編纂的演變」, 「游於藝：十一至十四世紀士人文化活動與人際網絡」國際學術研討會, 台北: 長庚大學, 中華民國 (中国語), 2015年6月12日.

21. “Legitimizing Ancestry: Transition of Ancestral Narratives and Genealogy Compilation in North China beyond the Yuan-Ming Transition,” in Panel “Alternative Perspectives on the Yuan-Ming Transition,” Association for Asian Studies Annual Conference 2015, Chicago Sheraton Hotel & Towers, Chicago (IL), USA (英語), March 28, 2015.

22. 「12-14世紀華北社会と駐屯軍」, 第2屆東亞青年史學家研討班, 上海: 復旦大學光華樓東輔樓101會場, 中華人民共和國 (日本語), 2014年12月26日.

23. 「從祖塋碑刻來看的金元時期華北「宗族」想像」, “10至13世紀中国国家与社会”國際學術研討會暨中国宋史研究会第16屆年會, 杭州: 百瑞運河大飯店三樓接待厅, 中華人民共和國 (中国語), 2014年8月21日.

24. “Imagining Kinship in North China, 1127-1368: Genealogy, Family Graveyard, and Steles,” in Panel “Social History,” The International Conference on Middle Period China, 800-1400, Harvard University, Cambridge (MA), USA (英語), June 6, 2014.

25. Facilitating Panel “State and Society,” The International Conference on Middle Period China, 800-1400, Harvard University, Cambridge (MA), USA (英語), June 5, 2014.

26. 「碑刻與系譜: 12-14世紀華北宗族與系譜編纂」, 招待講演, 台北: 國立台灣大學歷史學系文學院第20教室, 中華民國, (中国語), 2014年4月25日.

〔圖書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
飯山知保 (IYAMA, Tomoyasu)
早稲田大学文学学術院・准教授
研究者番号: 20549513

(2) 研究分担者 ()

研究者番号:

(3) 連携研究者 ()

研究者番号:

(4) 研究協力者 ()

